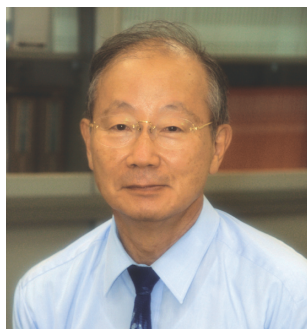


国際交流センター

国際交流センター

野村 正彦
(センター長)



研究センターが中心になって、学内の基本学科研究単位で行っている研究課題をまとめ埼玉医学雑誌に記載して紹介する話を頂いた。国際交流センターは研究単位ではない。教育センターと研究センターとそれに国際交流センターはそれぞれ独立した大学の役割を担うセンターとしての機能を担っている機構である。それで、当国際交流センターが何を行っていて、かつ何をなすべき機構であるかを記して、広く学内に知って頂く為にここに寄稿する。

国際交流センターは、国際交流部として発足し、今までは埼玉医大の学生が学生相互の交換留学制度のもとで海外に短期研修留学を行い、また海外から留学生を受け入れる窓口の業務を担って来た。平成7年から始まったこの制度は、最初は相手校が5校から、現在では9校と増えて交流を行っている。5年生20名が海外の交換

留学相手校に出かけて行き、また海外からの留学生18名が、埼玉医大に来て研修を行う相互間での交換留学制度である。

平成17年8月に、名前が国際交流部から『国際交流センター』となり、行って来た業務の内容が検討され、本来の学生の相互交換留学制度の業務は勿論であるが、卒後研修と医師を含む教員や職員の国際交流を含む広い視野に立っての業務に拡大して行く目的で新たに発足をした。責任者として国際交流センター長がいて、野村がこの業務に当たり、交換留学相手校のホスト教授数名からなる兼務の教員に加えて、専任の事務がこれに専念している。また、このセンターの中に、『国際交流センター運営委員会』があり、国際交流センターの組織の運営と、行うべき課題を円滑に遂行する為に、各部所から選ばれた運営委員により、検討と討議を行い、これらの実務にあたっている。

1. 『卒前教育』

交換留学制度は埼玉医大の誇るべきその存在価値を高く、かつ広く評価されている。現在は5年生20名の学生が、8月の夏休み4週間の期間を海外の交換留学相手校で研修を行っている。

一方、海外からは交換留学相手校から18名の学生が、埼玉医大で4週間BSLを研修するために来る。この相互の交換留学制度で相互学生の研修と交流が、埼玉医大および海外の相手校とで行われて来ており、国際相互学生の交流を担う重要課題として行われている。

今後、5年生の研修の中で、海外での単位研修の認可を埼玉医大内で行った暦修診療科と同様に扱う等の課題がある。

そして、今行っている8月を中心にした時期が、他の日程に移す事も検討されており、教育カリキュラムとの兼ね合いで最も良い時期はいつの時期かを含めた検討が行われている。

更に、現在行っている相手校の見直しと、更に新たな交換留学相手大学を考慮する必要性もあり、これらを考慮し検討を行っている。

毎年留学生を選考するに当たり、学生部の先生達に依頼を行い選考を行って来ているが、各大学間で志望する学生間の数と内容に温度差が多く、これを再考することも検討課題がある。

2. 『卒後教育』

大学院生およびの教職員の留学を実現する為、種々の業務の必要性がある。

現在、我が校で留学している全ては、各基本学科を中心にした研究室レベルで行われて来た。教授なり個人的

な関係で、海外の特定の教授なり、研究室との関係を中心にした相手があり、相手校があり、ここに留学の話が起こり、これを実現する方向にある。これを、広く大学として窓口を拡げ、このテーマで相互の研究や、臨床研修を行うには、どの国のどの大学／病院／研究所がベストなのかと、相手側の候補を検討する。これらに対して、我が埼玉医大から、何を希望していて、それには誰が最適であるか、さらにこれらを受けて、海外のどこに出かけて行き、これを行って来るか、と言った筋書きを作成して、実現ができればと考えている。

これらを実現させる為には、大学を留守にする間の生活がある。給与の件、旅費、研究費、研修費等と、費用の問題等を解決しなければならない。これらは、大学当局の寛大な理解が必須となって来る。

大学院生および卒後研修修了医師および研究者が海外で活躍する場を拡げ、研修と研究する場を海外研修に発展させる視野に入れた業務を提供する。これらは、学生の時、即ち「卒前教育」、および卒後に体験する事「卒後教育」の両輪を活発に起動させる事により、国際医療人として幅広く活躍する糧となる場を提供する努力を惜しまない考えである。

学生交換留学は現在、5年生20名が夏休み4週間で提携している大学で、医学教育実習、BSLをそれぞれの留学先の大学病院で行っている。スウェーデン(Linköping大学)、ドイツ(Charite-Berlin大学、Bochum大学)、イギリス(Liverpool大学)、アメリカ(Johns Hopkins大学、Albert Einstein大学)、カナダ(Manitoba大学)、台湾(Chang Gung大学)およびハンガリー(Semmelweis大学)の各大学である。Charite-Berlin大学だけが4名を受け入れていると言う事情から20名が出かけて行く数字である。「海外」から埼玉医大に来る学生数は、9大学から各校に2名ずつの18名が、現在受入れている学生数である。

また、交換留学相手校で海外から18名の学生が、埼玉医大で4週間で研修するために来る。大部分は臨床系の基本学科でBSLを行うが、基礎学科での希望者もある。この相互の交換留学制度で相互学生の研修と交流が、埼玉医大および海外の相手校で行われて来ており、国際相互学生の交流を担う重要課題として行われている。

大学院生および卒後研修修了医師および研究者が海外で活躍する場を拡げ、研修と研究する場を海外研修に発展させる視野に入れた業務を提供する。これらは、学生の時、即ち「卒前教育」、および卒後に体験する事「卒後教育」で、国際医療人として幅広く活躍する糧となる場を提供する制度である。